

OTU OKAYAMA TEACHERS' UNION ニュース

岡山県児童生徒文詩集『おか山っ子』特別号

発行所

岡山県教職員組合
岡山市中区西川原255番地
〒703-8567
(電話) (086) 272-1278)

編集人 松尾 涼 児

発行人 吉田 康 文

印刷所 株式会社インテグレーション KOHWA

第74回『おか山っ子』特別賞表彰式



9人の特別賞受賞者を表彰

3月16日、岡山市のピュアリティまきびにおいて、第74回『おか山っ子』特別賞表彰式をおこないました。当日は、受賞者と保護者、学校関係者のほか、片山圭子岡山県子ども・福祉部長をはじめとする6人の来賓（後援団体の代表）、が出席しました。FM岡山の「Fresh Morning OKAYAMA」などでおなじみのフリーアナウンサー、森田恵子さんの進行により、2,325点の応募作品の中から選ばれた小中学校各学年1点の特別賞を受賞した9人の子どもたちを表彰しました。



審査講評 野林 雅史 審査委員長（西栗倉村立西栗倉小学校）

「書く」という作業は大変です。でも、できごとをしっかりと思い出して、よく考えて書いたからこそ、読む人の心にも残るのだと思います。これからも、日々のくらしの中のできごとを豊かに書き綴ってください。

特別賞受賞作品を含む
特選作品 **116** 点を掲載！

岡山県児童生徒文詩集

第74回『おか山っ子』

7月上旬発売予定 鋭意制作中！

特別賞受賞作品は
HPから確認できます。

HPはコチラから



特別賞受賞作品紹介（審査委員長審査講評より）

山陽新聞社長賞

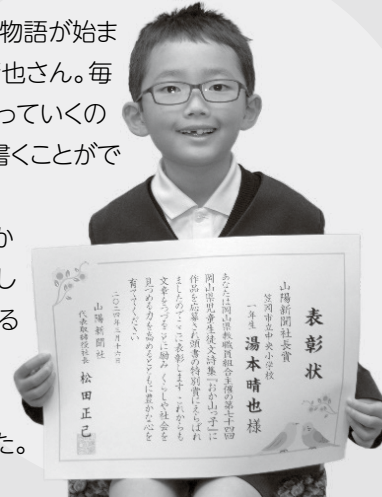
「カブトムシがきた！」

笠岡市立中央小学校 1年生 湯本 晴也 さん

ちょうど一年前の三月にカブトムシの幼虫を三匹もらうことから物語が始まります。はじめは、うれしい気持ちと不安な気持ちが半分ずつだった晴也さん。毎日お世話をしているうちに、不安より成虫になる楽しみの方が大きくなっていくのがよく伝わってきました。幼虫の成長のようすや細かな変化をくわしく書くことができていて、そのときのようすが目に浮かぶようです。



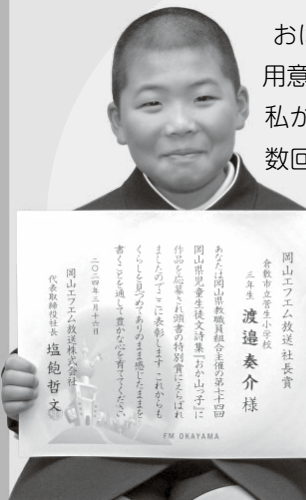
幼虫に名前をつけたり、三匹の成虫からうまれた卵を見つけて大声で歌いだしたりするところから、カブトムシに対する晴也さんの深い愛情がよくわかりました。この先の続きの物語もぜひ知りたいと思わせてくれる、素晴らしい作品でした。



「アナグマとぼく」

倉敷市立菅生小学校 3年生 渡邊 奏介 さん

おばあちゃんの家の物置で聞いたねこの鳴き声に、ねこの好きそうなものを用意して置いておき、次の日もようすを見に行くと現れたのはなんとアナグマでした。私が住む奈義町も勤務している西粟倉村も自然豊かなところですが、アナグマには数回しか出会ったことがありません。よほどおばあちゃんちの物置の居心地がよかったのでしょうか。奏介さんは、アナグマのようすやおばあちゃんとの会話、そのときに感じた自分の思いまでも、しっかりと自分の言葉で表すことができています。アナグマとの出会いから、山に住む動物たちのくらしや地域の環境のことまで考えることができる奏介さんは、大きく成長していると思います。



岡山エフエム放送社長賞

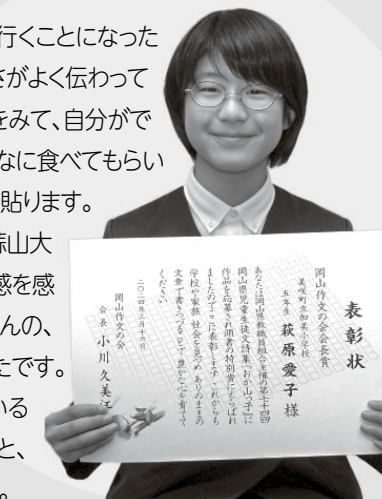
「一年で一番〇〇だった日」

美咲町立加美小学校 5年生 萩原 愛子 さん

おじいさんとおばあさんの作った蕨山大根の出荷のお手伝いをしに行くことになった愛子さん。春に大根の種を植える作業や秋の寒い中での洗う作業など大変さがよく伝わってきます。初めは乗り気でなかったのですが、働く家族の姿と見事に育った大根をみて、自分ができることを考え出します。大根の値段シール貼りを任された愛子さんは、「みんなに食べてもらいたい」というおじいさんが言った値段より10円だけ高い値段をつけてシールを貼ります。



それでも飛ぶように売れていく、大人気の蕨山大根。このお手伝いを通して、やりがい、達成感を感じ、働くことの意味まで考え綴られた愛子さんの、前向きな書きぶりが読んでいて心地よかったです。私も、売られている野菜一つ一つに作っている人たちの手間と愛情がこめられているんだと、この作品を読んで改めて考えさせられました。

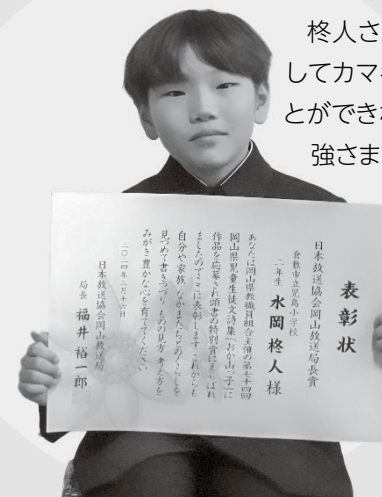


岡山作文の会会長賞

「カマキリのひみつ」

倉敷市立児島小学校 2年生 水岡 柊人 さん

柊人さんの書いた、この詩は、カマキリの目のこわさ、かまの速さ、そしてカマキリの強さを短い文章で見事に表しています。虫眼鏡でしか見ることができないような細かな目のようすから、自分の体より大きい敵にも挑む強さまで、多角的に捉えて書き表しています。そんな、こわくて速くて強いカマキリを捕まえることができたときのうれしい気持ちを「すごいでしょ」とすなおに表現できる柊人さんはすてきななあと思います。

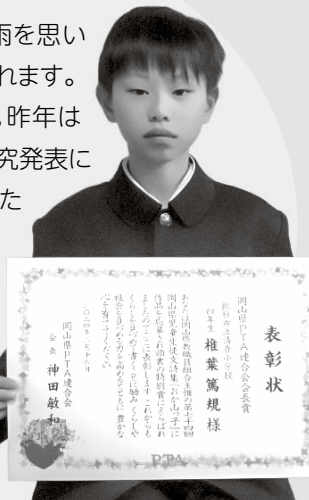


日本放送協会岡山放送局長賞

「ぼくの挑戦」

総社市立清音小学校 4年生 椎葉 篤規 さん

電池のいらない懐中電灯づくりにとりくんだ、篤規さん。西日本豪雨を思い出し、家族でとりくみ、まとめた夏休みの自由研究が科学研究発表会に選ばれます。その日から、要項やスライド、発表原稿づくりと篤規さんの挑戦は続きます。去年はつばめの巣立ちを見守った椎葉家のみなさんでしたが、今年は篤規さんの研究発表に向けて一丸となっていくようすが伝わってきました。お母さんに言われた「もらった機会は大切にしないと」やお父さんに言われた「のりの言葉でしか伝えられないんだ」という言葉をしっかり受けとめ、最後まで強い思いでやり遂げようと頑張る姿が、目に浮かんでくる作品でした。

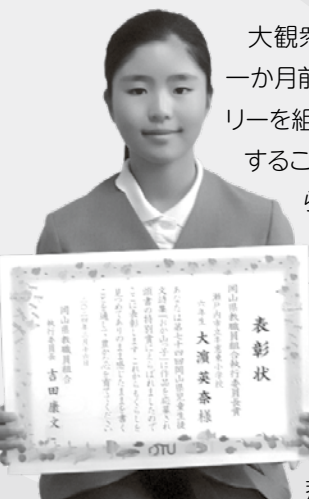


岡山県PTA連合会会長賞

「一球にこめた思い」

瀬戸内市立牛窓東小学校 6年生 大瀨 英奈 さん

大観衆のマスカットスタジアムのマウンドで始球式をおこなった英奈さん。一か月前に「始球式の小学生バッテリー募集」のチラシを見たことから始まり、バッテリーを組む友達の気持ちや女子野球発展への貢献などいろいろなことを考え、挑戦することに決めます。家族や友達、チームの監督・コーチなど多くの周りの人に支えられながら、練習を重ねます。始球式当日、決勝戦で戦う高校の監督や選手たち、球審にも励まされ、勇気をもらい、緊張に負けずストライクを投げ込んだ英奈さんから、人間としての強さを感じられました。高校球児にも負けない熱い夏の一日までの出来事を通して、野球のすばらしさを素直な言葉で書き綴った英奈さんの文章は、読む人を惹きつけます。



岡山県教職員組合執行委員長賞

特別賞受賞者のみなさん
おめでとうにひびくまな

「岡山の未来」

岡山市立上南中学校 1年生 **飛岡 碧波** さん

作品の題材は、夏休みの課題であるボランティア活動のことです。普段から遊びに行っている九幡港のゴミを拾おうと決めた碧波さん。中学校から示されたボランティア活動ではない、前例のないことへの挑戦でしたが、仲間を集め、保護者の協力と漁協の組合長の許可を得て、一步一步計画を進めていくようすは、やはり中学生。とても頼もしく感じます。

台風直後の港で、たくさんのペットボトル、ビニール袋、釣り糸や釣り針などのゴミを



拾う中で、今、話題になっている海洋ゴミの問題を想起し、この問題を自分事として考えるようになっていきます。達成感と危機感を感じ、「小さなことでも活動を続け発信していきたい」と綴られた文章から決意の重さが伝わってきます。「自分たちの行動でゴミを捨てる人が減ること」を「私の使命だ」と言う碧波さんの姿は、とても輝いて見えます。

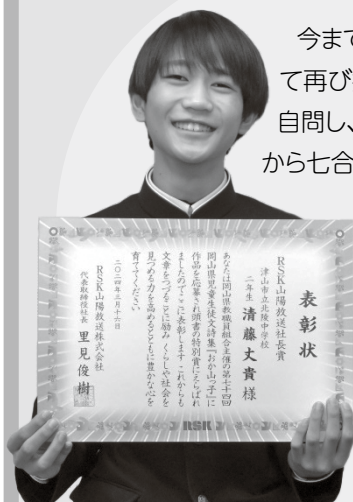


岡山県教職員組合執行委員長賞

「日本一の絶景」

津山市立北陵中学校 2年生 **清藤 丈貴** さん

今まで多くの山を登頂してきた丈貴さんが唯一登頂できなかった富士山。コロナ禍を経て再び挑戦の機会が訪れます。途中、新七合目の休憩で見えた景色を美しいと感じないわけを自問し、「富士山でまだ何も達成していないから」と、頂上をめざす気持ちを強くします。登り始めから七合目、八合目へと登っていく描写は、短いシンプルな文章で書かれ、未知の山を登り続けていく緊張感のなかで、丈貴さんが見た情景が浮かんでくるようです。高山病になってしまった丈貴さんが、富士山登頂成功に至るまでの展開は、手に汗握る見事な書きぶりとなっています。高山病に負けず、支えてくれる家族に感謝を忘れず、「最後まで登り切った頂上から見える景色は、曇っていて見えなくても、心で感じる絶景だ」と言う丈貴さんが登山から得た力は、これから先の挑戦にも生きていくことでしょう。



RSK山陽放送社長賞

「無駄じゃない、無駄にしない。」

岡山市立高松中学校 3年生 **石井 愛梨** さん

中学校受験で不合格となった経験から自分の内面を振り返り、考えたことが、大きく愛梨さんを変えていきます。愛梨さんは、受験勉強の中で、自分から質問する力、受け身でなく能動的にとりくむ姿勢、自分の考えと体験を結び付けて文章にする力など、多くのことを財産にしています。「結果が全てじゃなく、過程が大事」と私もよく言うのですが、「経験が生きるタイミングがあり、それを生かすか無駄にするかは自分次第」という愛梨さんの文章には「なるほど」と周りを頷かせる説得力があります。

受験を通して、深く自分を見つめ直し、最後は「私が人生を終えるとき『無駄じゃなかったんだ。』そう思える人生を歩みたい」と、力強く言い切ることのできる愛梨さんの書いたこの作品を、これから受験に挑もうとする多くの人に読んでもらいたいと強く思いました。



岡山県知事賞